

女性消防団員の特性を活かした 地域に根付いた消防団活動



福岡県北九州市若松消防団
分団長 井上 景子

1 はじめに

福岡県北九州市には、8つの消防団があり、およそ2,000人が消防団員として在籍しており、そのうち約140人が女性消防団員です。

私たちが活動している若松消防団では、昭和63年に女性消防団員の第1期生4名を採用しました。その後、活動の輪を広げ、現在17名で活動を行っています。

2 女性消防団員の特性を活かして

北九州市の女性消防団員は、高齢者世帯の防火訪問や応急手当講習の他にも、人形劇や楽器演奏等を通して防火指導を行うなど、北九州市が掲げる「安全・安心なまちづくり」のため、地域防災の中心として幅広く活動しています。

そのような中、若松消防団では女性の特性を活かして、火災予防に貢献できることはないかと検討していたところ、平成3年、若松区の防災講座で演じた「防火劇・水戸黄門」が大好評であったため、

継続的に防火劇を行うことにしました。平成4年には、女性消防団員も14名となり、防火劇団名を若松区に民話として伝わる河童伝説にちなみ「カップ・ファイヤーズ」と命名し、同年6月に福祉施設防火デーの主行事として「若松カチカチ山物語」で本格的に劇団として活動を始めました。

3 「わかりやすく」「楽しく」 伝えたい

女性ならではのアイデアを活かしながら子どもから高齢者まで、わかりやすく楽しめる演劇を目指して、脚本、大道具、小道具、衣装等の作成や演技指導もすべて女性消防団員で担当しています。いきいき安心訪問（高齢者世帯を訪問し、防火防災指導を行う）でうかがった際には、「あら、水戸黄門様！」と手を合わされたり、制服を着て歩いていると「劇、観たよ。面白かった。住宅用火災警報器は10年で取り替えるんやね。知らなかった。」と声をかけられることもあり、少しずつ



幼稚園での防火劇



福岡県女性消防団員研修会での防火劇



春の火災予防運動連絡会での防火劇

地域に根付いてきていることを嬉しく思い、活動の力となっています。

現在では演目も「水戸黄門の防災」、「磯野家の防災」、「救急車の適正利用」、「小児向け火の用心」など各種シリーズがあり、演目数は30以上になりました。各種防火防災行事や福祉施設等の依頼を受け、様々な演目で年間3～5回程の公演を行っています。観劇した先の団体等から高評価を頂き、対応できないほどのリクエストを頂いております。

また、「全国女性消防団員活性化大会」や「国際消防防災展」など他都市でも公演させて頂き、今日までの総公演数は100回以上になりました。今後も様々な防火・防災のテーマを選び、毎年1回は新しい演目の防火・防災劇ができるよう心掛けていきたいと思ひます。



市民センターでの防火劇

4 防火・防災劇を通して

防火・防災の啓発活動にとどまらず、劇の練習や実演を通して消防団自体のチームワークを高め、さらには女性消防団員の認知度を向上させ、新規団員の確保や防火訪問等も円滑に行うことができるようになりました。

今後も一人でも多くの方に防火・防災の意識をもって頂けるよう、防火劇をはじめ地域と密着した活動の輪を広げていきたいと思ひます。



練習風景 救命士から救命処置の指導中

5 おわりに

今年3月に、「第23回防災まちづくり大賞・消防庁長官表彰」という名誉ある賞を頂きました。この賞の名に恥じないよう、若松消防団一丸となって防火・防災に取り組んでまいります。